

**SIMI**

社会的インパクト・マネジメント・イニシアチブ

Social Impact Management Initiative

2020年 VISION

2020年までに、社会的インパクト評価、マネジメントを広く社会に定着させ、社会的課題の解決を促進させます。

～12の目標と38のアクション～

## Social Impact Day 2019

# 社会的インパクト・マネジメント事例紹介 (パネルディスカッション)

---

2019年7月2日

ケイスリー株式会社 代表取締役 幸地正樹

# 社会的インパクト・マネジメントとは

---



※可視化できない  
変化もある

プロセスの活用

結果の活用

## 皆が取り組むもの



# パネリストについて

資金提供者

**高塚清佳氏**  
新生企業投資株式会社  
インパクト投資チーム  
シニアディレクター

民間事業者  
(非営利)

**岩本真実氏**  
K2インターナショナルグループ  
NPO法人ヒューマンフェローシップ  
代表理事

民間事業者  
(営利)

**大久保亮氏**  
株式会社Rehab for JAPAN  
代表取締役社長

行政

※幸地より取組紹介

中間支援

**幸地正樹氏**  
ケイスリー株式会社  
代表取締役

# 行政による社会的インパクト・マネジメントの取り組み

	行政	テーマ
事例 1	神奈川県	エコシステム形成
事例 2	福岡市	官民連携

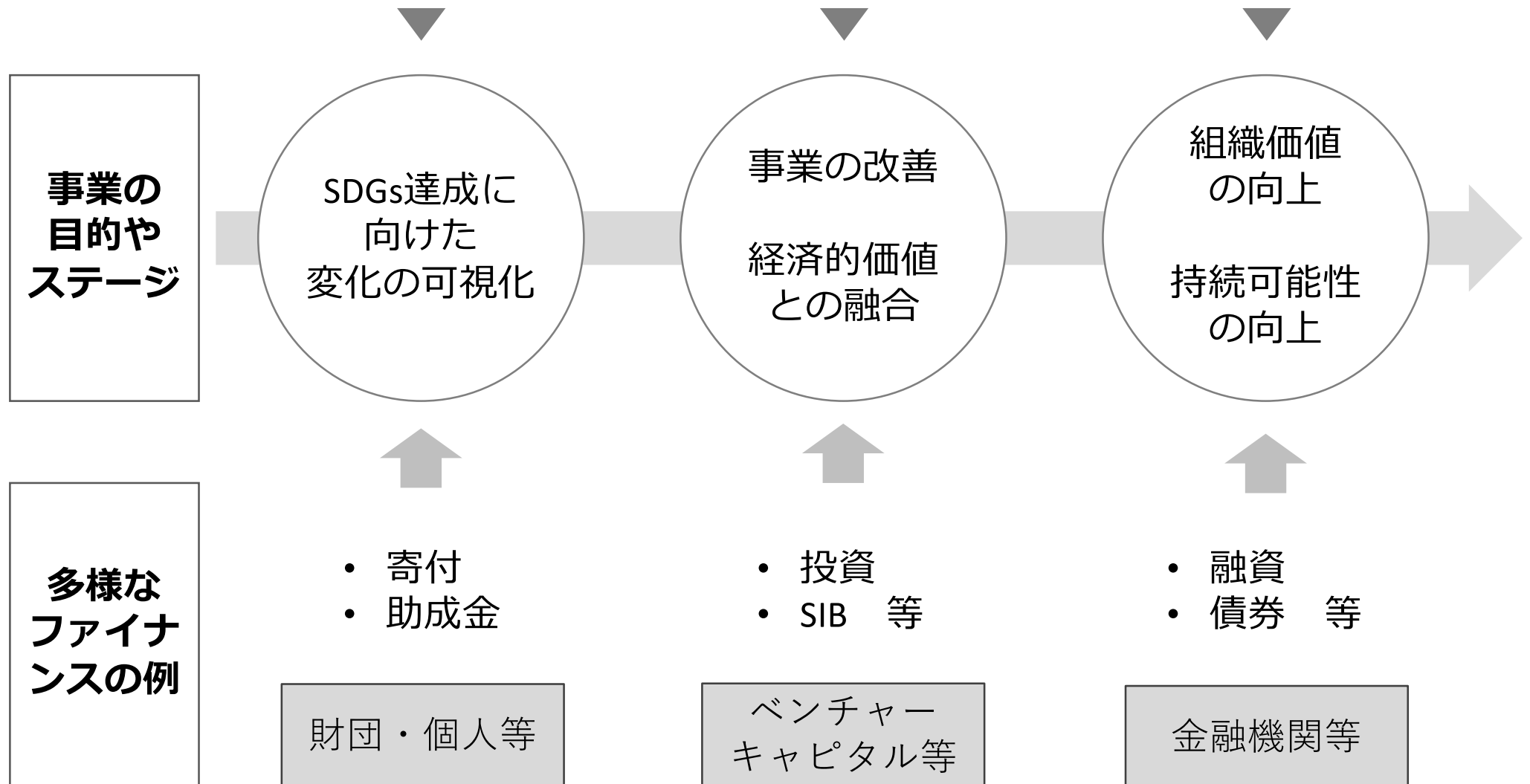
紹介

# 事例 1 神奈川県①：SDGs×評価×金融のエコシステム形成

	2018年度	2019年度	ビジョン
SDGs × 評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>5つの評価実証事業実施</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>5つの評価実証事業実施 (×金融)</li> </ul>	SDGs × 評価 × 金融 のエコシステム 形成
	<ul style="list-style-type: none"> <li>実践ガイド作成</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>実践ガイド改訂 (入門版)</li> </ul>	
		<ul style="list-style-type: none"> <li>日本における社会的インパクト・マネジメントの現状調査 (仮) 実施</li> </ul>	
×			
金融	<ul style="list-style-type: none"> <li>基本方針作成</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>SDGs×社会的インパクト評価×金融モデルの検討</li> </ul>	
×			
人材育成	<ul style="list-style-type: none"> <li>実践者育成研修方針作成</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>SDGs×社会的インパクト評価実践者育成研修の実施</li> </ul>	

# 事例1 神奈川県②：「SDGs×評価×金融」のイメージ

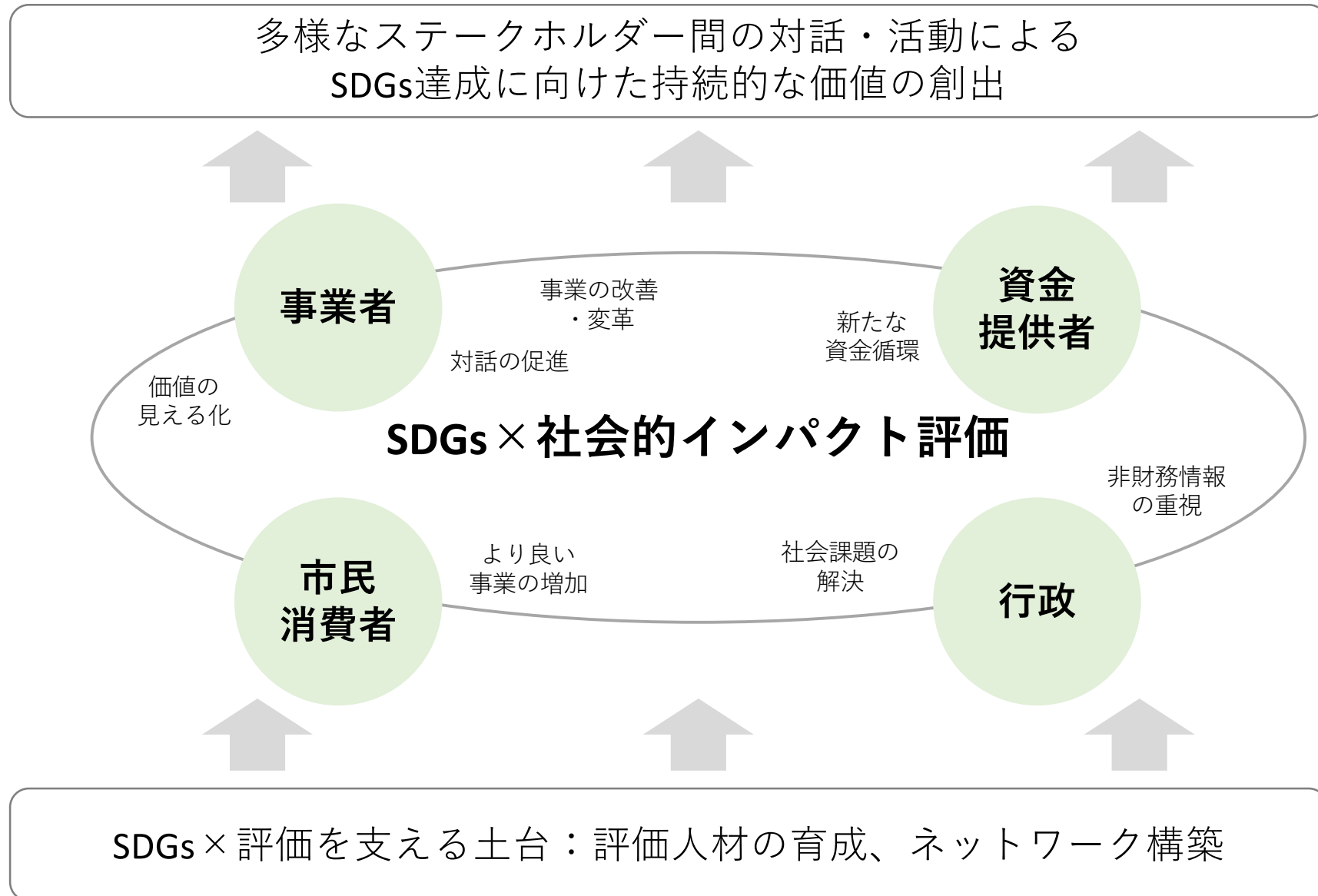
## SDGs×社会的インパクト評価



参考：神奈川県「SDGs社会的インパクト評価実証事業業務報告書（2019年3月）」



# 事例1 神奈川県③：「SDGs×評価×金融」のエコシステムイメージ

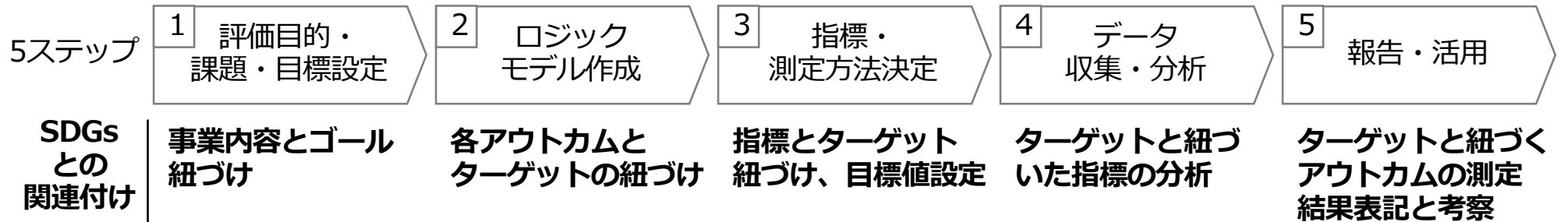


参考：神奈川県「SDGs社会的インパクト評価実証事業業務報告書（2019年3月）」

# 事例1 神奈川県④：実践ガイドイメージ

評価実践ガイド = 概要説明 + ワークシート + ワークシートの使い方

## 評価の基本プロセスに沿ったワークシートの構成



(例) ワークシート2

対象者	インプット (資源)	活動	アウトプット (直接的結果)	アウトカム (成果)			
				初期	中間	後期	凡例
ロコモ予防・改善を希望する人 (主に高齢者)	広域 アンチロコモ教室 (68回2か所) 運動指導・運動機感測定・健康講座	2015~2017年実施 ・健診受診率の向上 (導入年度に2.2%向上) ・ロコモ健診受診者数 (1,094人) ・ロコモ該当者抽出数 (579人) = アンチロコモ教室の直接効果 ・行政の運動教室等事業への参加 (1,448人、58%)	初期: 自己効力感の向上 (A), 日常運動量の増加 (B), 筋力・体力への悪影響の向上 (C), 広域より教室参加 (D), 下肢筋力の重要性の理解 (E) 中間: アンチロコモ運動法の習得 (F), 自宅での継続運動 (G), アンチロコモ運動法の習得 (H), 生活満足度・活力の向上 (I) 後期: アンチロコモ運動継続のための地域互助の仕組み構築 (J), アンチロコモコンテンツの開発・測定コンテンツ確立・介入コンテンツ確立 (K, L), 未病予防・改善のための知見の蓄積・発信・人材育成・輸出 (K, L)	初期: 教室への継続参加 (M), 自宅での継続運動 (N) 中間: アンチロコモ運動の習慣化 (M), ロコモリスクの低減 (N), 持続可能なアンチロコモ運動機会の充実 (O)	後期: あらゆる人の健康寿命の延伸 (P), 医療費の削減 (R), ロコモ予防・改善の参画者増加・市場の拡大 (Q)	凡例: 評価するアウトカム (緑), アウトカム発現に必要な介入 (赤)	
行政 (大磯町)	担当スタッフ 健康設備会場 アンチロコモ教室会場	住民応接 参加者募集 事業・管理	アンチロコモ教室参加者数 (約240名)	アンチロコモ運動継続のための地域互助の仕組み構築	ロコモ認知度の向上 ロコモ早期治療促進	医療費の削減	評価するアウトカム アウトカム発現に必要な介入
事業者 (アルクア)	下段協力測定器 資金 運営スタッフ	アンチロコモプログラムの実施	アンチロコモ教室参加者数 (約240名)	アンチロコモコンテンツの開発・測定コンテンツ確立・介入コンテンツ確立	アンチロコモの測定・介入コンテンツの普及(人材育成・フランチャイズ等)	ロコモ予防・改善の参画者増加・市場の拡大	
研究機関 (東海大学)	研究者 学生	アンチロコモプログラムの開発・検証	アンチロコモ教室参加者数 (約240名)	アンチロコモコンテンツの開発・測定コンテンツ確立・介入コンテンツ確立	大学の研究及び教育のブランド力・価値の向上	ロコモ予防・改善の参画者増加・市場の拡大	

インパクト・レポートの作成

参考：神奈川県「SDGs社会的インパクト評価実証事業業務報告書（2019年3月）」

## 事例 1 神奈川県⑤：実践者の育成

---

### 実践者育成プログラム 概要

- 期間：**5ヶ月間**
- 頻度：**4時間 × 10回 = 40時間 + 実践**
- 形式：講座 + フィールド実習
- 募集開始：2019年7月23日

### 実践者育成プログラム 説明会兼フォーラム

- 日時：2019年7月23日 13：30～16：00
- 場所：パシフィコ横浜
- 主催：神奈川県
- 後援：SIMI

**幸地正樹氏**

ケイスリー株式会社代表取締役

**大久保亮氏**

株式会社Rehab for JAPAN代表取締役社長

**岩本真実氏**

K2インターナショナルグループ  
NPO法人ヒューマンフェローシップ代表理事

**高塚清佳氏**

新生企業投資株式会社インパクト投資チームシニアディレクター